

定期作況報告

(第6号 平成27年10月20日現在)

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 上川農業試験場

1. 気象概況

9月下旬：平年に比べ、平均気温は1.5℃高く、降水量は7.8mm多く、日照時間は1.6時間多かった。

夏日（最高気温25℃以上30℃未満）は1日であった。

10月上旬：平年に比べ、平均気温は1.0℃低く、降水量は3.6mm多く、日照時間は12.7時間少なかった。

10月中旬：平年に比べ、平均気温は1.40℃低く、降水量は8.9mm少なく、日照時間は4.9時間少なかった。

9月下旬から10月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(℃)	14.7	13.2	1.5	10.4	11.4	▲ 1.0	7.8	9.2	▲ 1.4	11.0	11.3	▲ 0.3
最高気温(℃)	20.7	19.5	1.2	15.7	17.3	▲ 1.6	13.9	14.9	▲ 1.0	16.8	17.2	▲ 0.4
最低気温(℃)	9.8	7.7	2.1	5.8	6.3	▲ 0.5	2.6	3.9	▲ 1.3	6.1	6.0	0.1
降水量(mm)	44.5	36.7	7.8	41.5	37.9	3.6	27.5	36.4	▲ 8.9	113.5	111.0	2.5
降水日数(日)	6.0	4.2	1.8	7.0	5.3	1.7	7.0	5.9	1.1	20.0	15.4	4.6
日照時間(hr)	52.6	51.0	1.6	35.6	48.3	▲ 12.7	36.9	41.8	▲ 4.9	125.1	141.1	▲ 16.0

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

1) 水 稲：並

5月20日現在： 平年並

事由：播種は平年より1日遅い4月15日に行った。播種後平年より日照はやや少なかったが、高温に経過し出芽は良好であった。育苗期間中の天候は4月中旬、日照は少なかったが高温で、4月下旬から5月上旬は高温多照に経過し、苗の生育は平年より進んだ。5月中旬、気温は平年並みで日照は少なかったが、苗の生育は順調であった。移植は平年より1日早い5月18日に行った。移植時の草丈は平年より1.4~2.1cm高く、第1葉鞘高は平年並であった。主稈葉数と地上部乾物重もほぼ平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

6月20日現在： やや不良

事由：移植時からの低温・日照不足により植え痛みが見られたが、5月末の高温・多照により活着は良好であった。6月1半旬から3半旬の低温・日照不足により生育は大きく遅れ葉色も黄化した。4半旬が高温となり生育は回復しつつあるものの、主稈葉数は平年に比べ0.3~0.4枚少なく、草丈も低く、㎡当たり茎数は15~24%少ない。これらのことから、目下の作況は「やや不良」である。

7月20日現在： やや不良

事由：6月下旬の低温・日照不足と7月上旬の低温により生育は遅れて、幼穂形成期は平年より2~3日遅く、止葉期は平年より5~6日遅くなった。しかし、7月中旬の高温・多照により生育はしだいに回復しており、7月20日の葉数はほぼ平年並みで、茎数は平年並みからやや多かったものの、草丈は平年より4.1~5.7cm低かった。

これらのことから、目下の作況は「やや不良」である。

8月20日現在： やや不良

事由：7月中・下旬の高温により生育はやや回復したが、出穂期は平年より3~4日遅く、穂揃い日数も1日長かった。稈長は平年より0.8~2.2cm長く、穂長と㎡当たり穂数はほぼ平年並であるが、出穂の早い穂に不稔が多く見られる。

これらのことから、目下の作況は「やや不良」である。

9月20日現在： 並

事由：8月下旬~9月上旬の日照は平年より多かったが、8月下旬から9月中旬の気温が平年より低く経過したため、成熟期は平年より2~9日遅かった。登熟日数は平年に比べ「ななつぼし」が2日、「ゆめぴりか」で4日長かったが「きらら397」は1日短かった。㎡当たり穂数は平年に比べ「ななつぼし」が並、「きらら397」「ゆめぴりか」はやや多く、一穂粒数は「ななつぼし」が並、「きらら397」は少なく、「ゆめぴりか」は多かった。㎡当たり総粒数は「ななつぼし」が並、「きらら397」はやや少なく、「ゆめぴりか」は多かった。稈実歩合は平年に比べ「ななつぼし」は0.3ポイント、「ゆめぴりか」が1.1ポイント低く、「きらら397」は1.2ポイント高く、㎡当たり稈実粒数は「ななつぼし」「きらら397」がほぼ平年並み、「ゆめぴりか」は平年より多かった。

登熟はやや遅れたが、㎡当たり稈実粒数がほぼ平年並みであることから、目下の作況は「並」である。

10月20日現在： 並

事由：登熟歩合は「ゆめぴりか」がやや低い傾向であるが3品種ともほぼ平年並、籾摺歩合も「きらら397」がやや低い傾向であるが3品種ともほぼ平年並であった。精玄米千粒重は平年比0.7~0.9g軽かった。精玄米重は「ななつぼし」が685kg/10a、「きらら397」が624kg/10a、「ゆめぴりか」が635kg/10aとそれぞれ平年比104、96、99%で3品種の平年比の平均は100%であった。これらのことから、目下の作況は「並」である。

表2 10月20日の水稻の生育

項目	品種名 ／年次	ななつぼし			きらら397			ゆめぴりか			
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
生育期節	播種期 (月日)	4.15	4.14	1	4.15	4.14	1	4.15	4.14	1	
	移植期 (月日)	5.18	5.19	△ 1	5.18	5.19	△ 1	5.18	5.19	△ 1	
	幼穂形成期 (月日)	6.26	6.23	3	6.29	6.26	3	6.26	6.24	2	
	止葉期 (月日)	7.15	7.09	6	7.16	7.11	5	7.15	7.09	6	
	出穂期 (月日)	7.25	7.21	4	7.26	7.23	3	7.24	7.20	4	
	成熟期 (月日)	9.14	9.09	5	9.14	9.12	2	9.14	9.05	9	
	穂揃日数 (日)	8	7	1	8	7	1	9	8	1	
	登熟日数 (日)	51	49	2	50	51	△ 1	52	48	4	
	生育日数 (日)	152	148	4	152	151	1	152	145	7	
移植時	草丈 (cm)	15.0	13.6	1.4	15.0	12.9	2.1	15.3	13.5	1.8	
	葉数 (枚)	4.2	4.0	0.2	4.3	4.1	0.2	4.2	4.3	▲ 0.1	
	茎数 (本)	1.8	1.8	0.0	1.9	1.9	0.0	1.9	2.0	▲ 0.1	
	第1葉鞘高 (cm)	2.3	2.6	▲ 0.3	2.5	2.5	0.0	2.5	2.5	0.0	
	地上部乾物重 (g/100本)	4.73	4.64	0.09	4.75	4.42	0.33	4.66	4.78	▲ 0.12	
本田生育	葉数 (枚)	6月20日	7.9	8.3	▲ 0.4	8.3	8.6	▲ 0.3	8.2	8.6	▲ 0.4
		7月20日	10.4	10.3	0.1	11.0	11.1	▲ 0.1	10.8	10.7	0.1
		止葉葉数	10.4	10.3	0.1	11.0	11.1	▲ 0.1	10.8	10.7	0.1
	茎数 (本/m ²)	6月20日	473	621	▲ 148	619	725	▲ 106	543	683	▲ 140
		7月20日	745	734	11	879	785	94	849	813	36
	草丈 (cm)	6月20日	33.8	39.8	▲ 6.0	31.6	33.8	▲ 2.2	33.9	37.9	▲ 4.0
7月20日		75.9	81.3	▲ 5.4	67.5	73.2	▲ 5.7	75.8	79.9	▲ 4.1	
成熟期	稈長 (cm)	69.3	68.5	0.8	64.4	62.5	1.9	67.3	65.1	2.2	
	穂長 (cm)	16.9	16.8	0.1	16.2	16.6	▲ 0.4	16.9	16.8	0.1	
	穂数 (本/m ²)	683	677	6	750	724	26	770	746	24	
収量構成要素	一穂籾数 (粒)	49.1	48.6	0.5	40.4	43.3	▲ 2.9	45.2	42.7	2.5	
	m ² 当たり籾数 (×千)	33.5	32.9	0.6	30.3	31.2	▲ 0.9	34.8	31.7	3.1	
	稔実歩合 (%)	95.8	96.1	▲ 0.3	95.5	94.3	1.2	93.9	95.0	▲ 1.1	
	m ² 当たり稔実籾数 (×千)	32.1	31.7	0.4	28.9	29.4	▲ 0.5	32.7	30.1	2.6	
	同上記 (%)	101	100	1	98	100	▲ 2	109	100	9	
	登熟歩合 (%)	91.8	91.0	0.8	87.2	85.9	1.3	84.7	86.2	▲ 1.5	
	籾摺歩合 (%)	81.2	81.2	0.0	78.9	80.3	▲ 1.4	79.0	79.1	▲ 0.1	
	屑米歩合 (%)	2.1	1.9	0.2	3.3	2.4	0.9	3.2	3.0	0.2	
	精玄米千粒重 (g)	21.7	22.6	▲ 0.9	22.6	23.3	▲ 0.7	22.3	23.0	▲ 0.7	
収量	藁重 (kg/10a)	617	645	▲ 28	555	598	▲ 43	581	622	▲ 41	
	精籾重 (kg/10a)	847	810	37	793	811	▲ 18	805	812	▲ 7	
	精玄米重 (kg/10a)	685	657	28	624	650	▲ 26	635	641	▲ 6	
	収量平年比 (%)	104	100	4	96	100	▲ 4	99	100	▲ 1	
	検査等級 (等)		1下	-		1下	-		1下	-	

注 1) 平年値は前7カ年の中、平成21年(最凶年)、平成26年(最豊年)を除く5カ年の平均値。

2) △は平年に比べ「早」、▲は平年に比べ「減」を示す。

3) 苗代耕種概要 育苗様式：成苗ポット苗

施肥量：成分量でm²あたり、床土 N 3.0g, P₂O₅ 7.2g, K₂O 3.0g、

置床 N 27.0g, P₂O₅ 34.0g, K₂O 18.0g

4) 本田耕種概要 栽植密度：25.3株/m² (33.0cm×12.0cm)、3本植

施肥量：成分量で10aあたり、N 8.0kg, P₂O₅ 9.7kg, K₂O 6.9kg, 堆肥1,000kg

5) 精玄米千粒重・精玄米重：網目1.90mm以上、水分15%換算

2) 秋まき小麦：やや良

9月20日現在：

事由：平年より5日早い9月10日に播種し、平年より5日早い9月19日に出芽期となった。

10月20日現在：やや良

事由：出芽期が平年より5日早く、9月下旬の気温が高かったことから、生育は平年より進んでいる。葉数、草丈および茎数はいずれも平年を上回り、特に茎数は平年の約2倍となっている。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

表3 10月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名		きたほなみ		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期 (月.日)		9.10	9.15	△ 5
出芽期 (月.日)		9.19	9.24	△ 5
出穂期 (月.日)			6.06	
成熟期 (月.日)			7.18	
越冬茎歩合 (%)			128	
雪腐病発病度			12.1	
葉数(枚)	平27年10月20日	5.1	4.4	0.7
草丈 (cm)	平27年10月20日	19.6	18.5	1.1
	平28年 5月20日		38.4	
	平28年 6月20日		86.5	
茎数 (本/m ²)	平27年10月20日	1473	723	750
	平28年 5月20日		1366	
	平28年 6月20日		685	
成熟期	稈長 (cm)		78	
	穂長 (cm)		8.6	
	穂数(本/m ²)		633	
子実重 (kg/10a)			646	
同上平年比 (%)				
リットル重 (g)			804	
千粒重 (g)			39.2	
検査等級 (等)				-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成22年、27年（収穫年度）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

3) 大 豆： やや良

6月20日現在：並

事由：播種期は平年より3日早い5月19日であった。播種後の適度な降雨により出芽が揃い、出芽期も平年より3日早い5月31日であった。6月上旬の低温により生育がやや停滞し、主茎長、主茎節数とも平年をやや下回っている。

したがって、目下の作況は「並」である。

7月20日現在：並

事由：6月下旬から7月上旬まで平年より気温が低く経過したことから、開花期は平年より5日遅れた。主茎長は平年を下まわっているが、主茎節数、分枝数とも平年並となっている。

したがって、目下の作況は「並」である。

8月20日現在：やや良

事由：7月30日の強い降雨により全面が倒伏した。主茎長は平年より5.4cm短い。主茎節数、分枝数および着莢数は平年を上回っているが、倒伏による莢の充実不良等が懸念される。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

9月20日現在：やや良

事由：主茎長は平年より2.5cm短い。主茎節数、分枝数および着莢数は平年を上回っているが、倒伏による莢の充実不良等が懸念される。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

10月20日現在：やや良

事由：成熟期は平年より2日遅い9月24日であった。百粒重が平年より5.2g軽い32.6gであったが、着莢数は平年を上回って、子実重は452kg/10a（平年比107%）とやや多収であった。屑粒率も平年より低かった。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

表4 10月20日の大豆の生育

品 種 名		ユキホマレ		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	5.19	5.22	△ 3
出芽期	(月.日)	5.31	6.03	△ 3
開花期	(月.日)	7.16	7.11	5
成熟期	(月.日)	9.24	9.22	2
主茎長 (cm)	6月20日	10.3	12.0	▲ 1.7
	7月20日	55.5	65.4	▲ 9.9
	8月20日	67.4	72.8	▲ 5.4
	9月20日	70.5	73.0	▲ 2.5
	成熟期	70.5	73.7	▲ 3.2
主茎 節数 (節)	6月20日	3.5	4.4	▲ 0.9
	7月20日	10.6	10.3	0.3
	8月20日	11.1	10.4	0.7
	9月20日	12.1	10.6	1.5
	成熟期	12.1	10.6	1.5
分枝数 (本/株)	7月20日	7.0	6.9	0.1
	8月20日	7.9	7.3	0.6
	9月20日	7.0	5.9	1.1
	成熟期	7.0	5.7	1.3
着莢数 (個/株)	8月20日	120	85	35
	9月20日	92	74	18
	成熟期	92	73	19
子実重	(kg/10a)	452	424	28
同上	平年比 (%)	107	100	7
百粒重	(g)	32.6	37.8	▲ 5.2
屑粒率	(%)	1.0	3.6	▲ 2.6
検査等級	(等)		3上	-

- 注 1) 平年値は、前7か年中、平成22年、26年を除く5か年の平均値。
 2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。
 3) 成熟期の主茎長、主茎節数、分枝数、着莢数は、9月20日の値。

4) 小 豆 : 良

6月20日現在 : 並

事由 : 播種期は平年より2日遅い5月26日であった。播種後は、適度な降雨により出芽が揃ったが、6月上旬の低温により出芽期は平年より3日遅かった。そのため、主茎長、本葉数とも平年をやや下回っている。

したがって、目下の作況は「並」である。

7月20日現在 : やや不良

事由 : 6月上旬から7月上旬まで平年より気温が低く経過し、分枝数は平年並みであるが主茎長、本葉数とも平年を下まわっている。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

8月20日現在 : 並

事由 : 開花期は平年より4日遅れた。7月30日の強い降雨により全面が倒伏した。主茎長は平年より16.5cm長く、本葉数は平年より少ない。分枝数、着莢数は平年を上回っている。倒伏により生育が遅れており、莢の充実不良等が懸念される。

したがって、目下の作況は「並」である。

9月20日現在 : 並

事由 : 成熟期は平年より16日遅れた。主茎長は平年より20cm長く、分枝数、着莢数は平年を上回っているが、主茎節数は平年よりやや少ない。倒伏により生育が遅れており、莢の充実不良等が懸念される。

したがって、目下の作況は「並」である。

10月20日現在 : 良

事由 : 百粒重は平年より1.6g重い14.2gであった。一莢内粒数が平年より多く、子実重は444kg/10a (平年比137%) と極多収であった。屑粒率は平年並であった。

したがって、目下の作況は「良」である。

表5 10月20日の小豆の生育

品 種 名		エリモシヨウズ		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	5.26	5.24	2
出芽期	(月.日)	6.11	6.08	3
開花期	(月.日)	7.26	7.22	4
成熟期	(月.日)	9.20	9.4	16
主茎長 (cm)	6月20日	3.8	4.8	▲ 1.0
	7月20日	19.9	38.8	▲ 18.9
	8月20日	82.1	65.6	16.5
	成熟期	87.0	67.0	20.0
本葉数 (枚)	6月20日	1.2	1.5	▲ 0.3
	7月20日	8.4	9.7	▲ 1.3
	8月20日	9.4	13.0	▲ 3.6
主茎節数 (節)	成熟期	14.2	15.0	▲ 0.8
分枝数 (本/株)	7月20日	6.4	6.0	0.4
	8月20日	6.6	5.6	1.0
	成熟期	6.7	5.1	1.6
着莢数 (個/株)	8月20日	75	54	21
	成熟期	63	59	4
子実重	(kg/10a)	444	325	119
同上	平年比 (%)	137	100	37
百粒重	(g)	14.2	12.6	1.6
屑粒率	(%)	2.9	3.4	▲ 0.5
検査等級	(等)		3中	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成20年、平成22年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。